



記 救急救命センター ICU 看護師 森田 悠

9月9日は「救急の日」とされています。

岩国地区消防組合本部に一日救急隊員を体験しに行ってきました。

まず、救急救命士の方から救急車の説明を受けました。救急搬送で使用するモニターや除細動器、人工呼吸器などたくさんの器材や物品が救急車内にコンパクトに搭載されていました。その日は救急要請があれば、救急車に同乗する予定であり、朝からとてもドキドキしていました。



すると、岩国市内の病院から病院への患者さんの転院搬送の要請があり、急いで予防衣やヘルメットの装着をし、救急隊員と共に救急車に乗り込み、緊急出動しました。救急車では患者さんと家族の横に座らせてもらいました。患者さんの身体にモニターを装着し、血圧を測ったり、患者さんと話したりしながら搬送先の病院へ向かいました。



患者さんとご家族から「えっ、女の人？看護婦さん？なんで救急車に乗ってるの？」と驚かれ、「今日は救急の日で特別乗らせてもらっています。」とお話をしました。ピーポーという大きなサイレンを鳴らしながら、緊急走行し、転院先の病院へ患者さんを無事搬送することができました。

搬送中は私が思っていた以上に、救急車の揺れを感じました。揺れる車内で救急隊員は患者さんの処置をしたり、記録を書いたり大変な作業をされていました。救急隊員の方は「救急車が高規格化され、新しいものになったので、これでも揺れなくなった方です。運転は難しく緊急走行ができるようになるまでは訓練が必要です。」と教えてくださいました。



救急現場での活動は限られた器材や隊員の人数で、患者さんの全身状態の観察や適切な処置を行い、患者さんを安全に運ぶことが必要であり、救急隊員は日ごろから多様な訓練をされていることを知りました。救急現場の実際を知ることができる貴重な1日となりました。

私は現在、救急 ICU (集中治療室) や救急外来で働いています。患者さんが病院まで救急搬送される経過やそれに携わる救急隊員の活動、活躍を理解し、今後の看護に生かしていきたいと思います。また、これからも大好きな救急看護を岩国で頑張っていこうと強く思っています。